

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4291100024		
法人名	有限会社 スローライフ・プランニング		
事業所名	グループホーム 時津ぎんなん		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町子々川郷3504-3		
自己評価作成日	平成26年12月31日	評価結果確定日	平成27年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=4291100024-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=4291100024-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成27年2月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設は、山や田んぼや畑・花々に囲まれた四季の美しい環境の中にある。職員は、利用者の本当の思いを知り、望む生活を目指す為にアセスメントやモニタリングを行い、支援させて頂くように考えている。ターミナルケアも行っており、地域のドクターや訪問看護ステーション・言語聴覚士や歯科医等の協力や連携もある。定期的に運営推進会議を行い、地域の自治会長や民生委員にも施設の理念や方向性をご理解頂き、自治会の集まりや地域の神社のお祭りなどにも声をかけて頂くなど、施設も地域にとって少しずつ馴染みの環境になってきている。また、周に2回程、栄養士の食事を提供させて頂いている。利用者も高齢化が進んでいるが、QOLの向上を考えながら、風船バレーやトランプやカラオケなどをつつ、利用者が心豊かに生活ができる施設を目指している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ハード面において、意図的に天井を高くして採光するなど開放感があったり、多くの電気を日中もつけて明るさを醸し出した。また、入居者はリビングで過ごす時間が長いので、生活空間に目を向けて、生活しやすいようにテーブルの配置を見直すなど、レイアウトの工夫を常に行っている。一方、取り組み内容においては、運営推進会議の場に多種多様な職種の参加を認め、専門的意見をもらえたり、連携の取りやすい環境にあった。また、入居者へのケアについては、オリジナルのアセスメントツールを用いて、思いや意向の把握が詳細にできていた。このアセスメントに基づいて作成されたケアプランに基づき、統一したケアが提供される体制が整っていた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念「敬意・傾聴・受容・寛容・愛情」を職員間で共有し、目標も施設内に掲示し、利用者が安心して楽しく生活して頂く事を意識しながら支援させて頂いている。	職員が理念の内容や意味を知り得る機会には、新入時のオリエンテーションやミーティング、カンファレンスの時が中心となっている。理念の文言のうち、特に「傾聴」を重視している。重要視しているだけに、施設内の掲示物の中で強調されていた。また職員への理念の周知徹底は、会議の場等を用いながら、確認している状況であった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を近所に持って行ったり、散歩の途中で挨拶をしたりしてコミュニケーションを取っている。地域の行事にも時には参加させて頂いたりして地道に地域に溶け込む様に努力している。	結束力の強い地域でもあり、自治会への加入もなされており、地域の行事にも積極的に参加している。地域行事へは、運営推進会議の際に自治会の方から依頼があったり、回覧板などで参加の依頼があったら、出席するような状況である。また、ちょっと前までは、地域の方が訪ねてきていたが、ここのところ足が遠ざかっている状況である。	以前は、近隣の住民の方が施設訪問してくれていた。今後もグループホームの取組みを知ってもらう目的を中心として、今よりも地域に根差し、人が集う場になるような働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近郊にある高等学校の職業体験実習の協力支援にも積極的に協力させて頂いている。また、運営推進会議を通じて認知症の方の理解を認知症介護指導者を中心に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催しており、家族や地域の方や時津町役場の方との交流の機会も増えており、地域での取り組みや施設の状況について意見交換をさせて頂き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議への参加は、警察、歯科医師や言語聴覚士等の医療関係者など、多種多様なメンバーで構成されており、内容を検討する際に専門的な意見が豊富である。特に利用者に対するケアの面では、随所に専門家からの助言内容が活かされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に時津町役場の職員の方に参加して頂いた時に、意見交換をさせて頂いたり、施設の現状・理念や利用者の様子について伝える様にしている。	地区の高齢者担当の課や、町の地域包括支援センターの担当者とは、運営推進会議で顔を合わせており、何か相談事がある時などは、この場を利用している。その他、困難ケースや事業所内で整理がつかないような案件が生じたら、各機関に相談するような体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスやミーティング等で話しをし、身体拘束については理解しているつもりである。施設内でも転倒リスクを考えながらも極力身体拘束をしないケアに取り組んでいる。どうしても時には家族に相談し、身体拘束の同意書を取得し対応する様にしている。	毎月、法人本部との合同会議の場で、各研修を開催している。この折に、外部研修に参加した職員による伝達講習や、社内認知症ケア指導者による、講話等が実施されている。実際に屋内の構造や居室内の様子を見たときに、利用者にとって生活しやすい環境となっており、行動に制限を行わないように工夫されていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングやカンファレンスにより職員の意識は向上しており、利用者へ言葉がけをする時は「疑問形」や「依頼形」での言葉がけを意識して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、管理者を含め職員間で学ぶ機会を持ち理解している。必要性があれば支援するが、まだ活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を確認しながら十分な説明を行っており、納得を頂いている。また、改定がある時には文章でお知らせして承諾を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族は協力的な方が多く、敬老会や花見や誕生日会にも積極的に参加して頂いている。施設への面会も多く、日々の様子をお伝えすると同時に要望を聴く様にしている。	利用者との接点は、普段の関わりの中から聞き取っている。そのため、できるだけ日中に話をする機会を持つように工夫していた。また、ご家族との接点は、主に施設に面会に来られた時や、電話にて行っている状況である。また、確認事項等については書面を用いることもあるが、主に口頭での確認が中心となっている。ご家族は事業所に対する感謝の気持ちを示されることは多々あっても、要望や依頼等を職員にいうことは、実情としてあまりなかった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設での敬老会や花見や誕生日会などの催しについては、職員が主体的に企画し提案している。運営推進会議や消防避難訓練についても計画し実行している。また、職員同士の気づきや、伝えたい事は連絡ノートで共有している。	日常的な業務に関する職員の意見等は、直接話し合いの中から聞くこともあるが、連絡ノートを活用することを確認できた。また、今のところ、職員と個別に面接する機会はないが、月に1回から2回開催されているカンファレンスの場面で、職員の意見を聞くようになっている。その他、法人全体の会議では、会社の代表と職員が顔を合わせて、話しをできる場が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の努力や、勤務状況を把握し、評価して応えてくれる。パート職員から正職員への道も積極的に開かれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	長崎県長寿社会課主催の研修や、介護福祉士会主催の研修に参加する機会を推進し、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士会主催の研修や、口腔リハビリの研修などを通じ、同業者や各専門職の方との情報交換や、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	Aさんらしさシートや11分類シートを使い、利用者の本当の思いや家族の思いに近づける様に傾聴し、信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや困っている事に耳を傾け、共感しながら良い関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報を重視しながらも、利用者の様子を見たり、家族から利用者の様子を伺う事で必要としている支援を見極め、対応する様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主体ではなく利用者主体の介護を心掛け、理念を大切に、側に寄り添う気持ちで支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の協力なしでは支援する事は難しい事は理解しており、常に家族に相談し協力を得ながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型の施設であり時津町の方が入居されており、日々家族の面会がある。利用者からの希望があれば行きつけの美容院にお連れする事もあり、お友達やご近所の方も面会に来られる事もある。	できるだけ入居前の環境を保持するために、利用者が自宅に住んでいた頃に通院していた病院へ、通院介助するケースが利用者全体の3分の2確認できた。その他、ご家族の協力も得ながら、行きつけの美容室に行ったり、電話を取り次いだり、職員が中心となって住み慣れたところをドライブしたりして、関係が途切れないように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が好きな様に時間を過ごされ、利用者同士でトランプや碁並べをされたり、風船バレーをしたりしてお互いを認め合って楽しく生活をされている様に感じられ、その支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむなく入院などで退所しなくてはならなくなった利用者の状況についても時間を作り、会いに行っている。また、家族からも相談される事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	Aさんらしさシートや11分類シートを利用しながら、利用者の本当の思いや家族の思いを把握するように努めている。困難な方には日頃の様子や表情、言葉、行動から利用者の思いを探り、カンファレンスで検討している。	11分類シートを利用し、職員全員でアセスメントを行っている。できる事出来ないことを共有し、利用者が楽しく生活できるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を大切にしながらも、施設に入所される前の様子やこれまでの生活環境・昔の話などを聴く様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	Aさんらしさシートや11分類シートを使い、利用者のできる事、できない事の把握に努めている。また、日々の利用者の表情や様子やバイタルなどから心身の状態の把握に努め、申し送りなどで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療機関や家族・職員などの意見を考慮し、利用者の思いに即した介護計画を作成するように努めている。	日常生活の中で気づきがあれば、すぐ記録を共有したノートに書けるようにしている。アセスメント票は常に職員が閲覧が出来るように配置しており、介護計画に生かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきについては、一人ひとりのケース記録に記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの様子を見守り、利用者の状況に変化があれば、医療関係者に相談しアドバイスを頂いたり、状況に応じて訪問看護に入って頂き支援する時もある。状況に応じてできるだけ柔軟に対応できるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や民生委員の方が地域の行事の参加しないかと声をかけてくれる。歯科医師や言語聴覚士にも訪問頂き指導頂く事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の時に医師との情報交換もできており、訪問看護や歯科医師に訪問頂き、アドバイスを頂いている。家族が受診した時も含めて受診の状況を記録し、職員間で共有している。また、口腔ケアの研修会などにも参加し、ケアに活かしている。	入居前からのかかりつけ医師の受診も行っている。日ごろの状態を記録したものを持参し、日常生活も把握して貰うような受診体制をとっている。パソコンで管理し、職員間の共有にも生かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化があった時にはまず、施設内の看護師に相談し、アドバイスを頂いたり、処置して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時に安心して治療ができ、早期に退院できる様に、医師や医療ソーシャルワーカーや看護師等と情報交換や相談に努め、病院との関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、入居時に家族と話をさせて頂き、家族から同意書を取得している。また、本人・家族の希望に沿ったケアができる様に医療関係者へ相談し、特に主治医や訪問看護師の協力を得ながらチームで支援している。	入居時に家族からの同意書を習得している。看取りの実績もあり、家族の希望や病状、支援体制が在れば今後も看取りの体制は整えて行きたい。日ごろから主治医、訪問看護師との連携を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、緊急時の対応についての研修を行い、応急措置や初期対応について統括マネージャーから指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防火管理者を選任し、年間計画を立て、定期的な防火・防災訓練を行っている。施設は、地滑り地帯に隣接しており、運営推進会議でも自治会長から避難場所の確認や事務所にハザードマップも貼っている。また、一斉通報装置やスプリンクラーも設置している。日々、自主点検表も記入しチェックしている。	消防署との避難訓練も年2回行っている。日ごろも避難訓練、避難経路の確認も行われており、実際の消火訓練も行っている。災害に備えた備品(水、コンロ、米、缶詰、電池、ラジオ、毛布等)も整えており、施設が地域に対しての避難所的にもなる体制を整えている。	今後は地域の消防団とも連携をし、さらに地域と密着した火災、地震、水害などの用途に合わせた避難訓練が出来るような体制を整えていってもらいたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を受け入れ、職員主体の言葉がけにならない様に心がけているが、時には職員主体の言葉がけになっている事があり、気づいた時には注意したり、カンファレンスで話をしている。	居室に利用者の思い出の品や家具などは自由に配置している。援助が必要な状態があれば、本人の意向を確認しながら支援が出来るよう体制を整えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ主体の思いを利用者に押しつける事無く、利用者の本当の思いに耳を傾け、利用者自身に決めていただく様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、各利用者のペースを把握する事に努め、利用者の希望に沿った支援をこころがけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを支援している。また、定期的に理髪師の方に来て頂き、施設内で散髪をして頂いている。また、希望があれば行きつけの美容院にお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回は栄養士が食事を作り提供している。残りの5回は委託業者に宅配を頼んでいるが、ご飯は施設で炊いている。食事の時は、職員も一緒に会話をしながら食事をし、下膳できる方にはお手伝いをお願いしている。	週に2回栄養士手作りの食事が楽しめる。宅配食であるが、食事状態にあわせ刻み、とろみ食に調理をしている。希望にあわせた食材を入れたり、ホットケーキなど手作りのおやつと一緒に作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談しバランスの取れた食事を提供している。利用者の食事量や水分量はケース記録に記入し職員間で確認している。特に水分については脱水症にならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎にならないように注意している。毎食後に利用者一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。口腔状態により提携歯科医に相談し、往診に来て頂く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、利用者のしぐさや様子を見ながら個別の言葉がけをしている。立位が可能な方、座位が可能な方については、殆どの方がトイレで排泄ができ、失敗された時は、羞恥心や不安を感じない様に配慮している。	トイレにはオムツや尿パット等、排泄用品は置かないようにしている。日中は下着のみの利用者もあり、介助が必要時はそっと声かけをし、状態に合わせた配慮が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行が可能な方には、日中にリビング内で歩行運動をしたり、入浴時に腹部マッサージをしたりしている。また、主治医に相談したり、必要であれば便剤を処方頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの様子やタイミングに合わせて支援しており、入浴中は静かにゆっくりと楽しまれる方や、職員との会話をしながら楽しめる方もおられる。浮腫予防で足浴は日々行っている。	夜間の入浴は難しいが、出来るだけ利用者の希望に沿った入浴が行われている。同性対応も行い、シャンプーやリンスも利用者の希望の商品をそろえるなどの配慮も行われている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、利用者に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬の目的や用法について理解している。様子に変化がある時は、薬情報を確認し、主治医に様子を伝え相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限り日々、楽しく過ごして頂ける様にトランプ、碁並べ、カラオケなど一人ひとりに合った楽しみ事を提供している。また、洗濯物をたたんで頂いたりしてできる事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に注意しながら近所を散歩している。職員も外出好きで、家族の協力もある。今後も人員体制を整え、業務の調整をしながら、外出の機会を増やせるように支援していきたいと考えている。	家族との外出、外泊も自由に行われている。近所を散策したり、車でドライブに行くなどの楽しみを持った外出支援が行われている。病院の外出は1対1の支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、家族の同意で施設で預かり、利用者の希望や必要な時は一緒に買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたいという要望があれば、職員がお手伝いをして支援をしている。各利用者の面会も多く、最近は電話をかける機会も少なくなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は天井が高く、開放感のある設計になっており、台所も対面式で職員も全体を見回せて見守りがし易くなっている。また、リビングからはたんぼや畑を眺める事ができ、季節を感じる事ができる。トイレも2ヶ所設置されており、利用者にとって使い勝手も良く、日々掃除をしてきれいにしている。	照明器具が数多く設置されており、天井も高く明るい。食事中は馴染みの音楽が流れ、窓からはのどかな景色が楽しめ、廊下には季節の装飾があり、ゆっくりとくつろげる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれがゆっくりと過ごせる様になるだけ支援をしている。気の合った人と話をされたり、テレビを観るのが好きな方や一緒に風船バレーやトランプなどを楽しめる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、馴染みのタンスなどを準備して頂く様にお願いしている。また、自宅で生活されていた頃の思い出の写真などを持ってきて頂いたりして協力して頂いている。	各居室には誕生会や行事に参加した時の写真や家族の写真などが飾られている。馴染みの家具や装飾品、位牌等持参され、以前の環境と変わらない生活で過ごせるよう配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ICFの視点でアセスメントを行い、自立して生活ができるようにバリアフリーになっている。また、リビング内のテーブルの配置については、福祉住環境コーディネーターの職員が動線を意識しながら考えている。		